

## 表したいものへの思いをもち、自分らしい表現で伝えようとする子ども

— 中学3年「School Museum ～思い出を校舎に飾ろう～」の実践から —

### 1 題材のねらい

これまで学習してきた技法や構成美，取り扱ってきた素材や画材などを組み合わせ，発想や構想を広げたり深めたりしながら，感性をはたらかせて造形表現を追求し，3年間の思い出を作品制作することができる。

### 2 授業の構想

#### (1) 子どものとらえについて

次の文章は，3年生が昨年度の学習の中でグループに別れてダンボールを加工しながら，素材のもつ魅力や表現，表情を見付ける学習内容（図1）について書いたふりかえりである。

グループの人たちとダンボールを使って表現を見つけました。ダンボール1つでいろんな表現ができるということが分かり，とてもおもしろかったです。 (生徒A)

ダンボールにも色々な種類があったり，何枚か重なってできているものがあったりと，面白いつくりをしていることが改めて分かりました。早く作品をつくってみたいです。 (生徒B)

生徒Aは話し合いによってダンボールから生まれる表現の多様性を見付け出すことができた。また，生徒Bはダンボールの性質や仕組みについて分析し，興味・関心をもって取り組もうとしている様子がうかがえる。ここではグループでかかわり合うことによって，ダンボールを素材とした作品制作における表現の可能性を発見し合うことができたり，さらにそれを自分の作品に取り入れたりすることができた。このように，身近な素材であるダンボールには多様な表現や可能性があることを実際に観て，触って，加工して，そして友だちと意見を交わしながら見つけることによって，教師側から一方的に説明されたものを制作していくよりも思考力や判断力が高まり，より作品に対して入り込んでいけたと考える。

本学年の生徒は，導入時の話し合いや制作，完成作品の鑑賞など，グループ学習を多く取り入れることにより，お互いに高め合いながらよりよい作品を表現したり，追求したりしてきた。

このようなかかわり合いで培ったことをいかし，本題材の作品制作を通して，制作する楽しさや喜びを抱かせ，完成した作品のよさやおもしろさ，素晴らしさなどを感じさせるとともに，学級全体での学び合いや個人の学びを通して，自分らしい造形表現を追求していけるように授業を構想していきたいと考えた。

#### (2) 本題材の内容と図画工作・美術科で考える思考力・判断力・表現力の育成との関わりについて

本題材では，3年間の集大成としてこれまで学習してきた題材を振り返り，その中で取り扱って



図1：ダンボールを加工して見つけた表現をボードに貼り付けたもの

きた技法（モダンテクニック）や素材（材料）、道具などにプラスして、新たに技法や構成美について学習し、それらを自ら選択して卒業制作という位置付けで作品を制作しようと考えた。材料としてはB4サイズ（2mm厚）のデザインボード（プロフェッショナルボード）を用い、そのボード上にデザインを施していく形となる。またテーマについては本題材の副題として挙げている「思い出を校舎に飾ろう」から、3年間の学校生活での記憶や場所などの思い出をデザイン化して表現するように設定し、慣れ親しんだ本校での想いを作品に表し、最終的に「School Museum」として完成作品を校内に展示する計画を立てた。

図画工作・美術における思考力・判断力・表現力は、創造的な活動を通して創意工夫と試行錯誤を繰り返す一連の過程の中で育成されると考えている。本題材では、中学校3年間で学習してきた内容を振り返り、既習の技法を使いながら、これまで扱ってきた素材や画材などを利用して作品制作を行い、それぞれポイントとなるところでグループや学級全体での話し合いを取り入れ、かかわり合いながら、お互いに高め合って作品制作を行ったり、鑑賞したりすることをねらいとしている。

本題材では課題設定の工夫により、アイデアスケッチや完成作品についてグループで意見交換するといった、学び合う場面を取り入れることで思考力・判断力・表現力を伸ばすことにつながると考えた。そして、アイデアスケッチについて思いを伝えたり、完成作品について鑑賞し合ったりする場面では、グループ及び学級全体による話し合いや意見交換の場を設定し、自分の作品やグループの友だちの作品などについて、かかわり合いながらさまざまな意見を発表し合う活動を通し、お互いに高め合っていくことによって、思考力・判断力・表現力を育成できるのではないかと考える。

### (3) 思考力・判断力・表現力の育成に関する学び合う場面の構想について

思考力・判断力・表現力の育成に向けて、中等部では課題解決の過程の中で評価・改善の場を設定し、ふりかえりの活動を通じて自分がどのような工夫をし、そこに何を反映させたかを言語化させていく。言語化することで自分の考えなどを確認し、整理することで意図が明確になっていくと考えた。また、教師側からお互いの作品や取組に対して、評価し合ったりアドバイスを交換し合ったりするかかわり合いの場を意図的に設けた。生徒たちが評価し合う中で、その言葉を掘り下げていくことで、より具体的に相手に伝えることができたり、自分の思いを上手く言葉で表現できたりすることにより、生徒たちは思いを巡らし、判断し、そして表現が高まっていくものと考えた。具体的に、かかわり合いの活動の中で思考力・判断力・表現力を育成するために次のような取組を大切にす。さらに、ワークシートや発言等から評価した上でより高め合い、作品制作や言語活動へとつなげていきたいと考えた。

#### ① アイデアスケッチについてのグループおよび学級全体での話し合い

アイデアスケッチの途中の段階で、グループ内で自分のアイデアスケッチについて制作意図や思いなどを伝え合う活動を取り入れる。技法や構成美、素材や画材をどのように選択、配置すればデザイン的なよさが表れるのか、自分の思い出を表すことができるのかを相手に伝えることで再認識したり自信につながったりし、よりよい表現方法へつなげていけるように促す。個人思考と集団思考をつなぐ教師側の仕掛けやはたらきかけ、価値付けを通して、新たな発見へとつながり、さらにアイデアを発展させたり、作品制作にいかしたりすることができる。また、お互いの制作しようとしている作品のアイデアスケッチからその魅力やよさに気付き、かかわり合いながら新たな発想や多様な表現を生み出すことができ、思考力・判断力・表現力が高まっていくのではないかと考えた。

#### ② グループや学級全体での鑑賞会

完成作品の鑑賞では、これまでの活動を振り返り、どのようなことを考え、判断し、表現したかを伝え合うために、グループでの鑑賞を行う。まず、グループ全員の作品について制作者がプレゼンテーションを行い、その作品に対して肯定的なコメントを書き、交換する。自分がその作品から

感じたことや考えたこと、友だちの表現から読み解き判断したことを焦点化し、それをどのような記述で伝えればよいかについて考えさせて取り組ませることが教師のはたらきかけとなる。また、学級全体の作品も授業内で自由に鑑賞する。一連のかかわり合いの活動を通して、思考力・判断力・表現力を育成していきたい。

### 3 展開計画

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学び合い）
1	これまでの学習を振り返ろう。	1	・これまでの学習を振り返り、「School Museum」についての説明を聞く。
2	新たな技法や構成美を学習しよう。	2 3 4	・新たな技法を学習する。（技法（モダンテクニック）カタログづくり）マープリング（墨流し）、デカルコマニー、フロッタージュ（こすり出し）、コラージュ ・新たな構成美を学習する。（構成美カタログづくり）シンメトリー（対称）やリピテーション（繰り返し）、リズム（律動）、アクセント（強調）、プロポーション（比例・割合）、コントラスト（対比・対立）、バランス（つり合い）
3	School Museumのデザインをアイデアスケッチしよう。①	5	・School Museumのテーマを決め、制作するデザインをアイデアスケッチする。
4	自分のアイデアスケッチについてグループの友だちに伝えよう。	6	◇グループの友だちに自分のアイデアスケッチについて制作意図や思いなどを伝える。 ・友だちのアイデアスケッチについてメッセージを贈る。
	School Museumのデザインをアイデアスケッチしよう。②		・アイデアスケッチについて伝え合った活動をもとに、改善したり付け加えたりしながらアイデアスケッチを発展させる。
5	School Museumの作品制作をしよう。	7 8 9 10	・アイデアスケッチをもとに、技法や構成美、素材や画材を選択しながら制作する。 ・デザインボードに直接描画したり素材を貼り付けたりする。 ・技法や構成美、素材や画材のもつ魅力を生かし、表現を工夫しながら作品制作を行う。
6	友だちの作品を鑑賞しよう。	11	・完成作品について工夫した点や苦勞した点などをグループの友だちにプレゼンテーションする。 ・お互いの作品に対する感想などをメッセージとして贈り合う。 ◇グループの代表生徒の作品を提示し、制作者本人のプレゼンテーションとコメンテーターのコメントを発表し、共有し合う。

### 4 授業の実際

#### (1) 新たな技法や構成美を学習しよう（第2次）

これまで学習してきた技法にはドリッピング、吹き流し、スパッタリングなどのモダンテクニック、そして構成美の一つであるグラデーションなどがあるが、さらにデザインの学習を深めるために次頁のプリント（図2, 3）のように、マープリング（墨流し）やデカルコマニー、フロッタージュ（こすり出し）、コラージュなどを習得させ、シンメトリー（対称）やリピテーション（繰り返し）、リズム（律動）、アクセント（強調）、プロポーション（比例・割合）、コントラスト（対比・対立）、バランス（つり合い）などの構成美についても学習した。子どもたちは、新たな技法や構成美を獲得することで、自分の思いをより作品に的確に反映させることができる。様々な技法を試す中で、より適切な表現方法を考えたり話し合ったりしながら、思考力・判断力・表現力を高めていくためには、重要な学習となった。

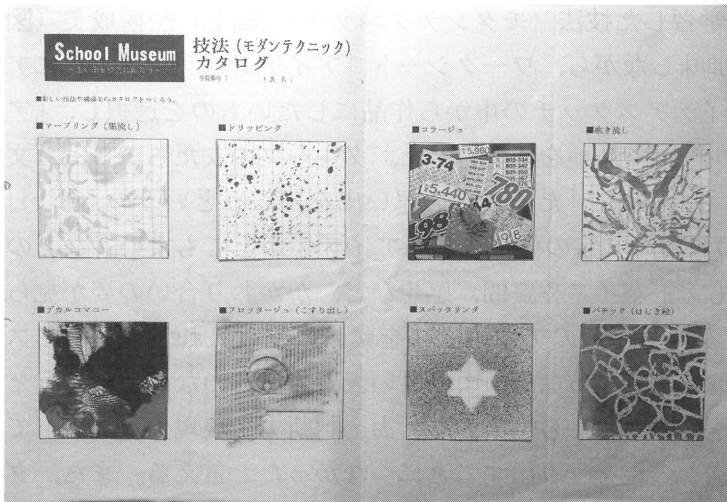


図2：技法について学習した「技法 (モダンテクニック) カタログ」

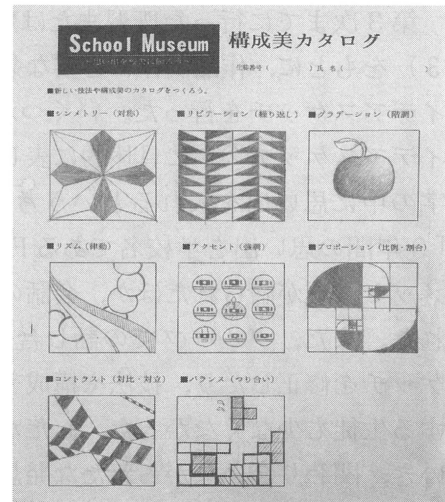


図3：構成美について学習した「構成美」カタログ

## (2) 自分のアイデアスケッチについてグループの友だちに伝えよう (第4次)

アイデアスケッチの途中の段階でグループ内において、自分のアイデアスケッチについて制作意図や思いなどを伝え合う活動を取り入れた。技法や構成美、素材や画材をどのように選択、配置すればデザイン的なよさが表れるのか、自分の思い出を表すことができるのかを相手に伝えることで再認識したり自信につなげたりし、よりよい表現方法へつなげていけるように促した。お互いの制作しようとしている作品のアイデアスケッチからその魅力やよさに気付いたり、個人思考と集団思考をつなぐ教師側の仕掛けやほたらきかけ、価値付けといったことから新たな発見へとつながり、さらにアイデアを発展させたり、作品制作にいかしたりすることができたりと、この活動によって思考力・判断力・表現力が高まっていき、かかわり合いながら新たな発想や多様な表現を生み出すことができるのではないかと考えた。



図4：自分のアイデアスケッチについて伝えていく様子

以下の図は実際に生徒が描いたアイデアスケッチである。(図5, 6)

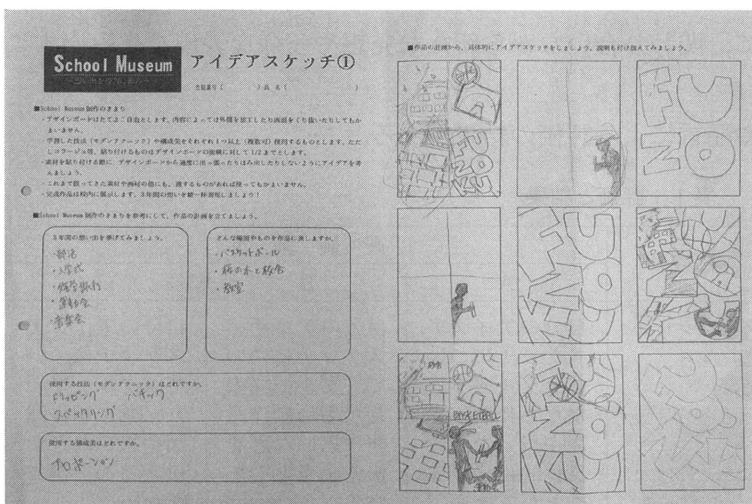


図5：アイデアスケッチ①

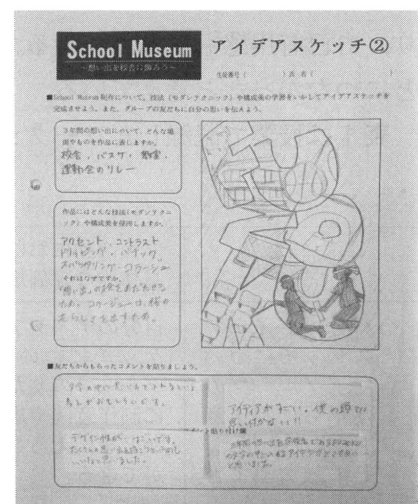


図6：アイデアスケッチ②



第3次までに行った既習または新たに学習した技法（モダンテクニック）（図2）や構成美（図3）をもとに、作品制作に必要な条件を加味しながら、ワークシート「アイデアスケッチ①」にアイデアスケッチを行った。いくつかのアイデアスケッチの中から作品にしたいものを選択し、「アイデアスケッチ②」に具体的に表し、グループで思いを伝え合った。グループの友だちからは「文字の中に思い出を入れるという考えがおもしろい」「たくさんの思い出を描こうというのもよい」「3年間の思い出を学校名であるFUZOKUの文字の中に入れるアイデアがとてもよい」などのメッセージが贈られたほか、会話の中にもアドバイスや質問、感想など、かかわり合いの姿が見られた。また、グループでの話し合い後に友だちからのアドバイスを素直に受け入れ、アイデアスケッチを修正したり、技法や構成美を追加したりするなど、よりよい表現方法につなげていこうとする生徒も少なくなかった。したがって、この活動から個人の思考力・判断力・表現力が高まっていき、関わり合いながら新たな発想や多様な表現を生み出すことにつながったと言える。また、グループでの話し合い後に学級全体の場で発表し、さまざまな技法や構成美を用いたアイデアスケッチについて共有し合うかかわり合いの場を設定した。

**Q 自分のアイデアスケッチについてグループの友だちに制作意図や思いなどを伝えることができた**

- ・そう思う・・・・・・・・・・・・・・・・48.4%
- ・どちらかといえばそう思う・・・・44.5%
- ・どちらかといえばそう思わない・・ 6.3%
- ・そう思わない・・・・・・・・・・・・ 0.8%

**Q 自分のアイデアスケッチについてグループの友だちにプレゼンテーションする活動は、自分のアイデアを確定させたり見直したりするうえで効果的であった**

- ・そう思う・・・・・・・・・・・・・・・・44.5%
- ・どちらかといえばそう思う・・・・51.6%
- ・どちらかといえばそう思わない・・ 3.9%
- ・そう思わない・・・・・・・・・・・・ 0%

上のアンケート結果からも分かるように、「自分のアイデアスケッチについてグループの友だちに制作意図や思いなどを伝えることができた」という質問に対して、9割以上の生徒が「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」と回答した。また「自分のアイデアスケッチについてグループの友だちにプレゼンテーションする活動は、自分のアイデアを確定させたり見直したりする上で効果的であった」という質問に対しても、9割以上の生徒が「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」と回答していた。このように、かかわり合いによってお互いの制作しようとしている作品のアイデアスケッチからその魅力やよさに気付けた。そして、個人思考と集団思考をつなぐ教師側の仕掛けやはたらきかけ、価値付けといったことから新たな発見へとつながり、さらにアイデアを発展させたり、作品制作に生かしたりすることができたりと、この活動によって思考力・判断力・表現力が高まっていったと考えている。さらにはプレゼンテーションすることによって自分の思いが相手に伝わったりそれを認められたりし、アイデアの確定や見直しに加えて自信につながり、自己有用感も生まれてくる。よって、関わり合いながら新たな発想や多様な表現を生み出すことにつながったと考えている。

表1は授業で記録したワークシートや発言による評価の結果である。

表1：評価と結果

学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
			A	B	C
◇自分のアイデアスケッチについて、グループの友だちに制作意図や思いを伝え、その魅力やよさを再認識する	自分のアイデアスケッチについて、グループの友だちに制作意図や思いなどを伝えることができる。	ワークシート 発言	自分のアイデアスケッチについて、グループの友だちに制作意図や思いなどを具体的に伝えることができる。	自分のアイデアスケッチについて、グループの友だちに制作意図や思いなどを伝えようとしている。	自分のアイデアスケッチについて、グループの友だちに制作意図や思いなどを伝えることができない。
結果			64%	32%	4%

96%の生徒が「おおむね満足できる」以上の結果になった。上で示したアンケートからも分かるように教師のはたらきかけによって生徒の姿に変容も見られた。これらのことから、かかわり合いによる話し合い活動と教師のはたらきかけを通して、思考力・判断力・表現力を高めることができたと言えるのではないだろうか。

### (3) グループで完成作品の鑑賞・メッセージ交換（第6次）

第6次では、作品完成後に鑑賞会を行い、制作した作品について、工夫した点や苦勞した点などをグループの友だちにプレゼンテーションし、お互いの作品に対する感想やコメントなどをメッセージとして贈り合った。(図7)ここでは友だちの作品のよさや素晴らしさ、工夫してある点などを見つけ、肯定的なコメントを伝えるように促したため、お互いに認め合ったり讚え合ったりする有意義な活動となった。



図7：グループでの鑑賞会の様子

## 5 成果と課題

課題解決に向けた学び合いを通して思考力・判断力・表現力を育成するために一連の活動を通して、かかわり合いによる話し合いや鑑賞の機会を設けたことで、表現に対する意欲を高め、学んだことを制作方法にいかしていくことができたのではないと思う。また、通常の授業では、4人グループに机を配置していることや、教師側の意図から場面によって6人グループに変則的に変えていくことにより、話し合いや鑑賞等がスムーズに行うことができたことは、これまでの成果と言える。しかし、制作中の私語や指示の通りにくい場面などは、通常教室と同様に机を配置することも考える必要がある。さらには技法や構成美に偏りがあったり、単調な作品もあったりしたため、教師側の「掘り下げる」または「提案する」はたらきかけも不十分と感じ、吟味しながら行う必要もあると言える。今後さらに、思考力・判断力・表現力を高めていくための教材やワークシートなどの開発、工夫も必要であると感じた。

(文責 錦織 秀行)



図8：SchoolMuseumの展示風景

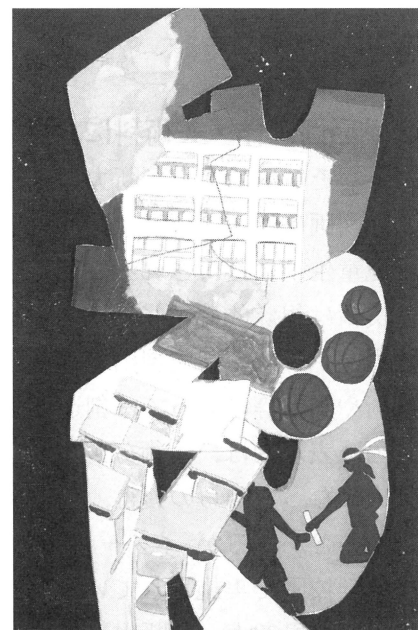


図9：生徒作品